

=====

【見学会】鮮やかで優しい、日本の白 ナカガワ胡粉工場見学会

日時：2018年8月28日 場所：ナカガワ胡粉株式会社

内容：「日本画の魅力は絵具にあり」と言う芸術家は多く、古来より日本画の材料として使われてきた岩絵具や胡粉には、それだけで一つの世界を描き上げてしまうような想像力に満ちています。胡粉（ごふん）は、牡蠣・蛤・ほたて等の貝殻からつくられた日本画の重要な白色絵具ですが、その用途は幅広く、白色としてだけではなく、色数の少なかった日本画絵具の混色に多用されてきました。墨との混色を「具墨（ぐずみ）」、朱との混色を「朱の具」と呼ばれるように、「具（ぐ）」は胡粉を意味します。また、艶やかでしっとりとした天然の白胡粉は日本画だけではなく、ひな人形、博多人形などにも使われ、日本の白として身近なものでした。美しい白色が作られるには数多くの工程が必要です。ナカガワ胡粉絵具株式会社は創業明治30年以來、胡粉づくりから始まり、日本の伝統的顔料である岩絵具の製造をしています。製品は国内シェアの80%を占め、約1,200色にもものぼる品揃えとともに「絵具ならナカガワ」といわれる信頼を育んでいる会社です。今回は普段見ることができない天然胡粉の製造工程を、特別に工場長にご説明いただきながら見学します。

=====

【講演会】：デザインのための色彩学Ⅰ

日時：2019年8月10日 場所：大阪市立大学文化交流センター

講師：日高杏子氏（芝浦工業大学 デザイン工学部 情報デザイン系 准教授）

内容：「マンセル表色系から見た原色と色の属性」

マンセル表色系では、赤、黄、緑、青、紫の5色が原色である。原色は英語で primary color と表され、一次色と訳されることもある。当然、二次色、三次色もあり、色彩に順位がついている。色の属性については、マンセルはオグデン・ルーダらの色彩学者の影響を受けている。19世紀に原色や属性の議論がなされた歴史と、加法混色や減法混色の原色・心理原色などがマンセル表色系へ与えた影響について解説する。

「マンセルカラーチャートとバーリン&ケイ『基本の色彩語』」

カリフォルニア大学バークレー校の文化人類学者ブレント・バーリンと言語学者ポール・ケイの焦点色と色彩語の研究は、1960年代には当然とされていた言語相対論に波紋を起こした。バーリンとケイとゼミの学生たちは、マンセルカラーカンパニーが製作したカラーチャートを実験に使用した。本講演では、当時の実験環境、さまざまな他の研究者の論考や1999年再版『基本の色彩語』のカラーチャートを検討する。

=====

【講演会】：デザインのための色彩学Ⅱ

日時：2021年3月14日 場所：オンライン開催（zoom）

講師：布矢千春氏（ドレスメーカー学院院長、杉野学園理事、東京都服飾学校協会理事、ドレスメーカー服飾教育振興会会長、(株)フォルトナボックス代表取締役）

吉澤陽介氏（木更津工業高等専門学校情報工学科 准教授）

講演 1 : 「ファッションと色彩学」 布矢千春氏

ファッションにおける色彩は雰囲気重視するため、アバウトに見え、色彩学だけで判断すると間違っていると思う側面がある。ファッションにおける色彩学の注意点を考える機会とする。

講演 2 : 「慣用色名の存在価値についての考察～色空間における慣用色名認識の定量化の試みから～」 吉澤陽介氏

JIS Z 8102 「物体色の色名」に採録されている慣用色名 267 色(金色・銀色を除く)の各々が正しく認識されているか、正しく用いられているかを明らかにするために、慣用色名認識の定量化を試みる。まずは、これまでの慣用色名認識に関する既往研究を振り返り、その上で定量化を行う上で必要となる指標について解説する。さらに得られた実験データから各慣用色名の認識度などを導出した上で、これからの JIS 慣用色名のあり方について考える機会とする。

=====